

会議の名称	西東京市介護保険運営協議会・第6回会議
開催日時	平成20年5月13日（火曜日） 午後1時から午後2時40分まで
開催場所	西東京市役所防災センター6階 講座室
出席者	（委員）阿委員、橋岡委員、五十里委員、岩崎委員、高岡委員、織田委員、北川委員、中村委員、齊藤委員、豊富委員、畠山委員、北澤委員、平野委員、陸名委員 （欠席：須加委員、吉岡委員、石井委員、平山委員） （事務局） 福祉部長、福祉部参与、高齢者支援課長以下5名
議題	1 第5回会議録の確認 2 認知症に関する取り組みについて 3 介護保険事業計画作成のスケジュール(案)について
会議資料	1 認知症高齢者数について 2 平成19年度権利擁護センターにおける相談援助実施状況 3 地域包括支援センターにおける認知症相談事例 4 介護保険運営協議会 検討スケジュール・テーマ  参考資料 北多摩北部保健医療圏における認知症医療連携システム報告書
会議内容	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録

1. 開会の挨拶（委員長）
2. 諮問
3. 市長挨拶
4. コンサルの紹介
5. 配布資料の確認（事務局）
6. 議題

（1）第5回会議録の確認

委員長：事前に配布した前回会議録の内容について間違いがないかの確認をお願いしたい。特にご意見がないようなので、これをもって第5回会議録とする。

（2）認知症に対する取り組みについて

委員長：認知症に対する取り組みについて、事務局より配布資料の説明をお願いする。

事務局：資料1「認知症高齢者数について」に基づき説明。

（質疑応答）

委員：この資料の統計をより詳しくした認知症の住まい方の統計を取っているのか。地域で安心して住むには、一人暮らしや高齢者のみの世帯のデータをとった上で、計画を策定する必要があるのではないか。

委員長：データを追加した形の資料を提出してほしい。

委員：認知症といってもいろいろあるが、その対策はあるのか。

事務局：具体的には主治医の対応となるが、検討していきたい。

委員：疑問なのは、日常生活自立度が 以上という位置付けだが、～ の認定ははっきりできるのか。介護保険の認定より認知症の認定の方が難しいと思う。特に認知症の場合は、短期間で急に症状が悪化することがあるが、その場合はどのように評価したのか。

事務局：介護認定によって、介護度と有効期間が決定される。その有効期間ごとに状態が更新されていくケースもある。確かに認定後に状態が変化することもあるが、今回の資料は、20年3月31日時点の評価をデータで表している。

委員：認定の基準が分からない。

事務局：指標が出ており、その認定基準に従って評価している。

委員：65歳以下の認知症の方が包括にいらして、サービスが利用できなという話をよく聞くので、若年性の認知症の方のデータも必要ではないか。

事務局：次回までに準備する。

委員長：認知症サービスは、圏域毎となっている。自立度 以上の方のデータを使ってもらった。

委員：資料2「平成19年度権利擁護センター相談援助実施状況」に基づき説明。

(質疑応答)

委員長：認知症の方の権利擁護は大切であるが、このことについて質問やご意見はないか。

委員：相談内容の中の“その他”は何か。

委員：債務が多い。

委員長：サービスを利用したかというデータはあるのか。

委員：特に作成はしていない。

事務局：資料3「地域包括支援センターにおける認知症相談事例」に基づき説明。

(質疑応答)

委員：市で認知症サポート講習会を実施してされているが、認知症ということがわかってどれだけの人が認知症を認識しているのか。また、今後認知症サポーターは今後どの程度やっていくのか。認知症の先の虐待や家族の行き詰まりなどの問題をどうやって解決していくのか。

事務局：現在、認知症サポーターが約1,500人いる。今後の展開としては、現在、市の職員も認知症サポートの養成講座を受けている。平成20年度中に職員全員が認知症サポーターになってもらおうと進めている。また、地域包括の職員にキャラバンメイトという認知症サポーターの養成の講師役になってもらい、自分の圏域を中心に老人クラブや自治会に認知症サポーターの養成を行っている。支えあいネットワークについては、積極的に訪問活動を推進しようということで、研修会を予定しており、ささえあいネットワークに登録した方に、月に1回の訪問と週に1回の外からの見守りということで支えあいネットワークを展開していく。

委員：相談内容の分類の中で、認知症に関するカテゴリーを作り、権利擁護や介護という区分けをして統計をとることが重要だと思うので、分類をお願いしたい。

事務局：今後、認知症の統計がとれるかどうか検討していく。

委員：保健所のものだが、保健所でもキャラバンメイトの研修をしているが、現在西東京市の

キャラバンメイトは52名、サポーターが1,597名で合計1,649名で、多摩地区の26市の中では飛び抜けて多く、総人口における割合が0.87%となっている。講座の開催回数も非常に多いので、今後も続けて欲しい。

委員：サポーターの役割が明確ではない。身近なところで困っている人が多いので、役割分担をはっきりさせ、確認する体制をとると、もっとうまくいくのではないかと。

委員：サポーターは、広くたくさんの方に認知症を理解してもらいたい。虐待のフロー図があるので、たらいまわしにならないように努力している。

委員：何を諮問事項として考えるのか曖昧になっている。

事務局：認知症の実態と事例についてである。

委員：スケジュールのテーマに則した議題にして欲しい。

委員長：認知症の問題は、地域密着のサービスのしくみと関連があり、自立度のいろんな症状が進んだ状況の検討となる。地域の様々なサービスと繋がっていくしくみをここで議論していきたい。

委員：身体介護よりも認知症介護の方が負担が大きい。訪問調査の時、本人の尊厳の問題があり、本人を前に言えないことも多いので、プライバシーの所をくみ取って欲しい。また、介護者も知識を持つようにしたい。

委員長：認知症のケアは、初期の段階を含めケアのスタンダードなスタイル作られ、計画で提示されると良いと思う。認知症に対して、個々の努力が繋がっていく仕組みが必要である

委員：介護サービスの中でという意味か。

委員長：介護サービスの中でもできると思うが、様々な手続きの中で、もっと積極的にやるべきである。西東京市としても独自の費用負担ができるが良い。

委員：フォーマル、インフォーマルの中でできるが良いが。

委員長：決まった枠の中だけで考えず、次にも議論していきたい。今日は認知症ということで現状の把握と課題を議論したが、認知症のケア、個々の努力から繋げる連携の仕組みをきちんと提示できるようになると良い。

### (3) 介護保険事業計画作成のスケジュール(案)について

事務局：資料4「介護運営協議会 検討スケジュール・テーマ(案)」に基づき説明。

(質疑応答)

委員長：後期高齢者医療の問題もあり、市民の方も介護保険料には注目している。このままでは、保険料の値上げは避けられないが、所得の低い方の軽減も考えていきたい。サービス量と同時にサービスの供給量を踏まえ、保険料を検討していくことになるが、このスケジュールで良いか。

委員：スケジュールの中で療養病床関係の地域ケアを考える必要があるが、療養病床から地域に戻らざるを得ない人のデータなどは、いつ頃でなのか。

事務局：都は、療養病床を増やす方針を出したので、都が考え方を示していくのではないかと。大変重要なテーマである。

委員長：国や都のスケジュールなどは出ているのか。

事務局：まだである。

委員：国や都のスケジュールに添ったものという認識でよいのか。

委員長：都だけが特別であって良いのかわからない。スケジュールは外からの情報を踏まえた上で進める。

委員：参考資料「北多摩北部保険医療圏における認知症医療連携システム報告書」に基づき説明。

委員：保健所が医師会に委託した認知症医療連携システムの紹介である。

委員：ホームページで自分の住所を入れると、近隣の医療機関が探せるので非常に便利である。

#### (4) その他

委員長：この後、保健福祉計画の検討委員会となる。

#### 7. 次回開催案内

6月3日（火曜日）午後1時～2時30分

於：保谷庁舎隣 防災センター会議室

#### 8. 閉会